

茶馬古道をゆく

—四川ルート of the starting point「雅安～康定」と、インドへいたる道「ラサ～ギャンツェ」—

小林尚礼

■四川ルートの起点「雅安～康定」

茶馬古道には、雲南の西双版纳(シブソンパンナ)から始まる道と、四川の雅安(ヤンガ)から始まる道がある。雅安周辺には、蒙山(モンシャン)を始めとする茶山・茶畑が広がっている。そこで収穫され加工された磚茶(蔵茶)が、チベットへ向けて出荷された。

漢族の住む雅安から、邛崃(チョンライ)山脈を越えて、チベットの入り口である康定(ダルツェンド)まで茶を運ぶ際は、馬ではなく人(茶背子)が茶を背負うことが多かった。100キロ近い磚茶を担いだ茶背子たちは、荷を降ろすと一人では担げないので、背負子の下に棒を挟んで立ったまま休んだという。その棒が削った穴は、今も石だたみの上に残っている。現在、雅安から康定へ行くには二郎山のトンネルを越えるが、茶馬古道の時代にはまったく別の峠(大相嶺と飛越嶺)を越えていた。

2008年

月日	天気	行程
12月6日	曇一時晴	成都一名山、蒙山
12月7日	曇	名山—雅安—荈経
12月8日	曇後晴	荈経—鳳儀—大相嶺(峠)2940m—羊圈門村—清溪
12月9日	晴	清溪—九襄—富庄—宜東
12月10日	快晴後曇	宜東—三交—飛越嶺(峠)2890m—化林坪村
12月11日	晴	化林坪村—興隆—冷磧—瀘定—康定
12月12日	曇	康定—瀘定—二郎山—天全—雅安—成都

■インドへいたる道「ラサ～ギャンツェ」

四川や雲南からラサへ達した馬帮(キャラバン隊)のなかには、さらにシッキム(インド)との国境付近まで足を伸ばして交易する者もいたという。また中華人民共和国成立以前は、インドとチベットの間での交易が、シッキムを介して行われていた。そのため、ラサ～トモ(亜東)～ガントクの間を歩く馬帮や商売人は少なくなかった。道は、現在のラサ～ギャンツェ～トモ(亜東)の車道とほぼ同じだったようだ。

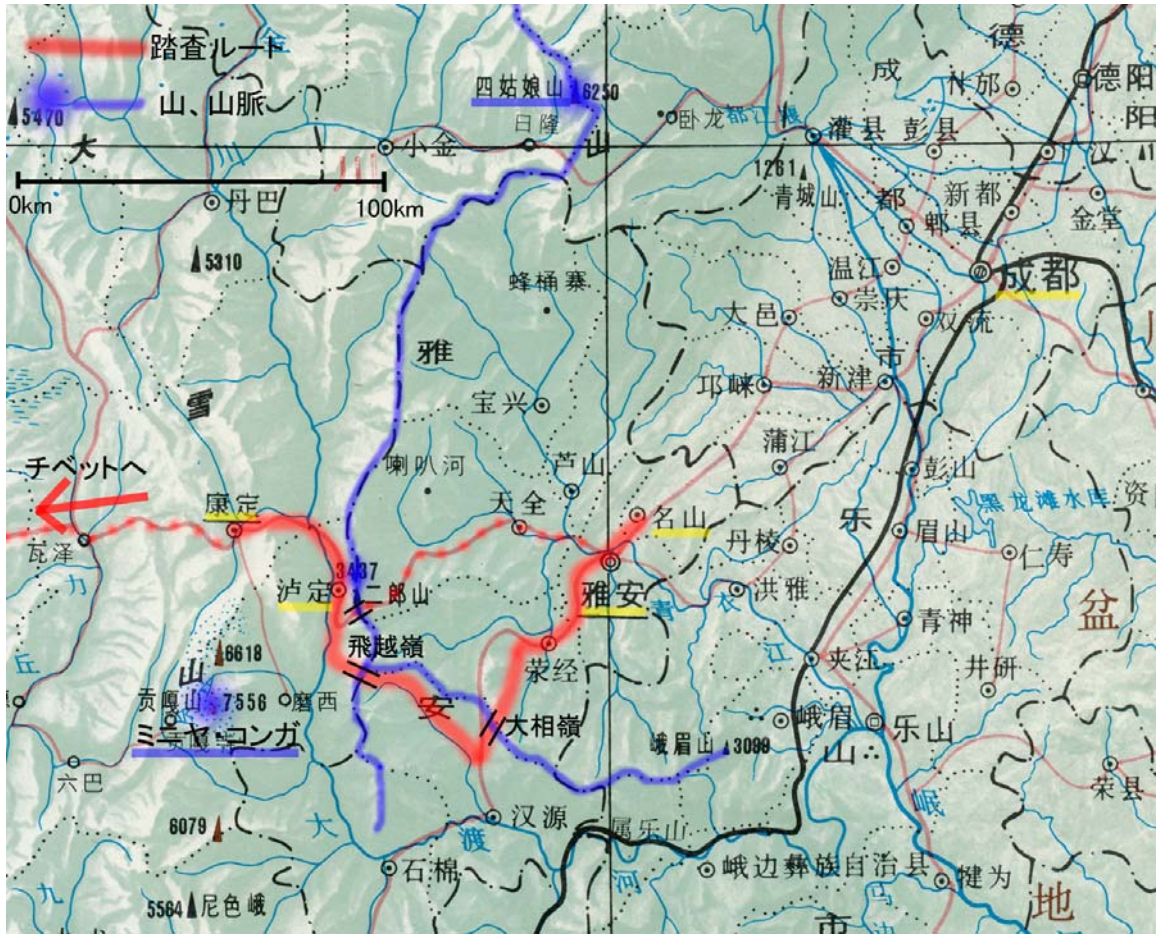
2008年はチベット問題の影響が大きく、国境に近いトモ(亜東)へ近づくことはできなかった。ラルン(熱龍)の老人への聞き取りによって、ギャンツェを経由しない近道の存在が示唆された。

2008年

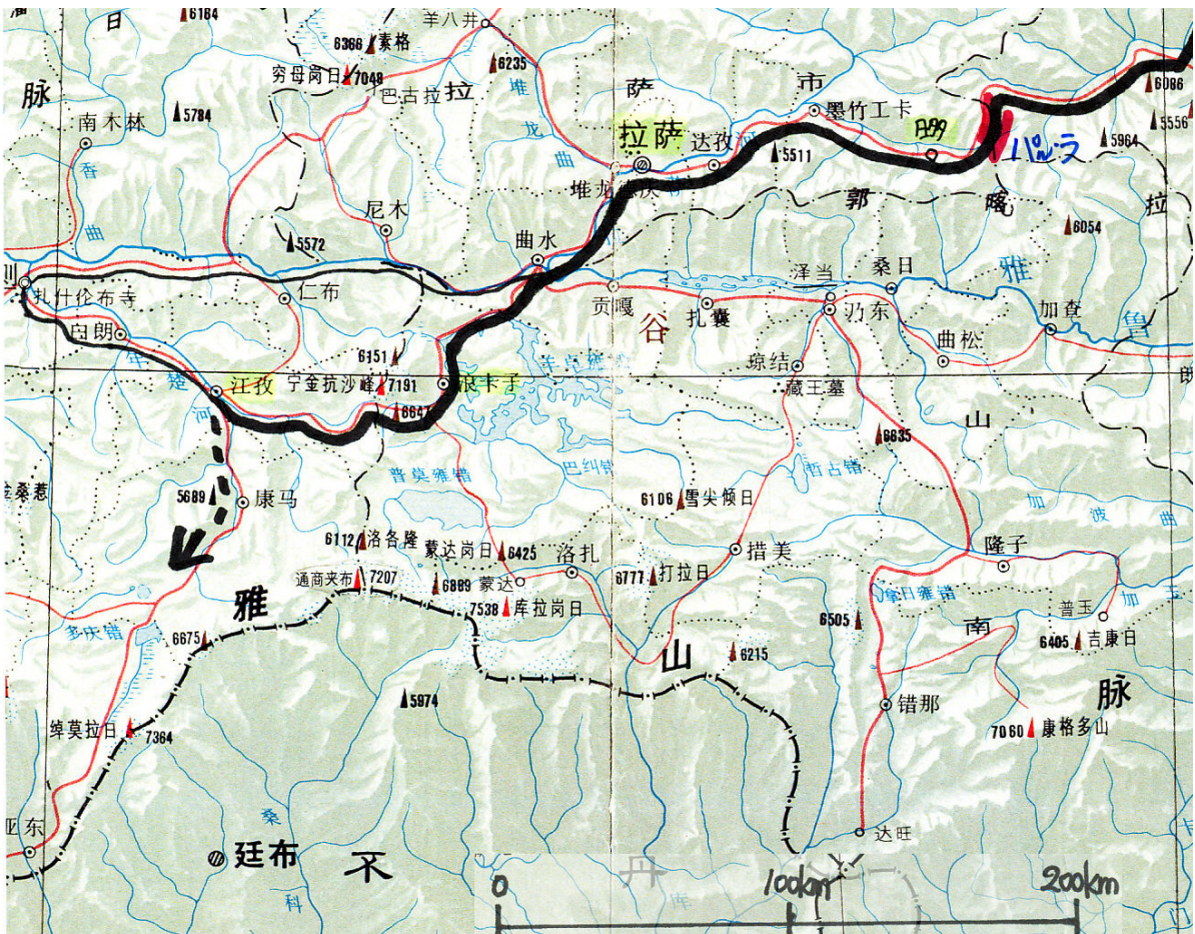
月日	天気	行程
11月23日	快晴	ラサ—チュシュル(曲水)—カムパ・ラーナンカルツェ(浪卡子)
11月24日	快晴	ナンカルツェ(浪卡子)—カロ・ラーラルン(熱龍)—ギャンツェ—シガツェ
11月25日	快晴	シガツェ(日喀則)
11月26日	快晴	シガツェ(日喀則)—ギャンツェ(江孜)
11月27日	快晴	ギャンツェ(江孜)
11月28日	快晴	ギャンツェ(江孜)
11月29日	快晴	ギャンツェ—パナム(白朗)—ヤルン・ツァンポー—チュシュル(曲水)—ラサ



茶馬古道ルート図



四川ルートの起点「雅安～康定」



インドへいたる道「ラサ～ギャンツェ」